

近所の農家さん

佐藤 さとら

睦美 ともみ
睦美さん (40)
(増戸地区)

佐藤さんは2023(令和5)年、東京農業アカデミーを卒業し、4月より新規就農者としてスタートした。

ミニトマトを中心にスイートコーン、ニンジン、エダマメ、タマネギなど7種類の野菜を栽培している。

野菜作りで心掛けていることは「主婦目線で洗ってすぐ食べられるような、調理に手間のかからない



ミニトマト「プチぷよ」のハウスで

い野菜をつくること」と話す。特に力を入れているのが、ミニトマトの「プチぷよ」で、皮が柔らかく食べやすいため娘さんにも好評とのこと。現在は所属する五日市ファーマーズセンターあいなや近隣のスーパーに出荷している。

就農のきっかけは管理栄養士の仕事をしている中で食育を通じて野菜作りに興味を持ち、農業なら食につながる資格を活かしながら、子育てとの両立ができると思ったこと。いつも散歩コースに畑があり、祖父が畑をされていて子どもの時によく手伝っていた事もあり農業は身近な存在だった。

市役所に相談したところ東京農業アカデミー八王子を紹介され入学。2年間栽培の他にトラクターや農業機械の取り扱いやメンテナンス、ハウスの組み立てなどを学び卒業した。卒業後は農地を探すゼロからのスタートで、借り受けた1.4アールの栽培ハウス4棟と30アールの畑から始めた。実際

に野菜を作るのも手探りで、やってみて反省する事が多かったと語る。

一人だと人手が足りなくて、野菜ができても収穫しきれず、課題も多くあった。先輩農家に相談したり出荷部会などで開かれる勉強会にも積極的に参加し、日々の農業に活かしている。女性農家(農家の奥さま)の集まりでも交流し、とても楽しく情報交換をしている。

ご主人はご実家がお茶農家で休みの日にはトラクターや力仕事を手伝ってくれる。娘さんも畑や直売所への出荷を手伝ってくれていて家族のサポートに助けられているとのこと。

趣味は、川遊びやBBQなどのアウトドアで、休みの日に娘さんとご主人の3人で遊ぶことが楽しいと話す。

今後挑戦したいのは、「プチぷよ」とエダマメの長期採りで、長期間にわたり安定して出荷させることで、お客さまに自分の名前を覚えてもらえるようになりたいとのこと。出荷する野菜に貼ってある

シールの「FUDO AKIRUNO」は農園名であり、食べ物と風土の2つの意味がある。あきる野の名前を伝えて発信していきたいとの思いから名付けた。

「将来的には管理栄養士の資格を活かして、料理教室を開いたり、食育の授業を取り入れて子どもたちに食の大切さを伝えていきたい」と今後の意気込みを語った。



ニンジンの収穫



ロゴマーク